

令和5年度（2023年度）

研究主題

『「たい」があふれる授業をめざして』

～心を揺さぶる導入～



摂津市立鳥飼東小学校

1. はじめに

立春の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は、本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、本校では今年度から研究テーマを『「たい」があふれる授業をめざして』～心を揺さぶる導入～と刷新し、取組みを進めてまいりました。昨年度末にこれまでの授業研究の総括を行うとともに、改めて「目の前にいる子どもたちに付けたい力は何か?」「そのためには何が必要か?」ということについて議論を重ねました。また、今年度4月から本校へ赴任した職員の意見も取り入れるなどして、前述の研究テーマへ辿り着きました。

一般的に、1時間あたりの授業構成として「導入」→「展開」→「まとめ」という一連の流れで授業を進め、特に導入部分では「前時の振り返り」や「本時のめあての提示」を行うなど、「児童の学習意欲を引き出す」という重要な「つかみ」の役割を占めております。それらを意識した上で、授業研究を行う際には「テーマに即した授業になっていたか?」ということについて論点がブレないう、授業参観シートを用いて確認・話し合いを行い、外部の方からも指導・助言をいただくなど、独りよがりな研究とならないよう進めてまいりました。しかし、至らない点や足りない点がまだまだあると感じております。そこで、ご参会の皆様から忌憚のないご意見を頂戴し、改善を重ねてまいりたいと考えております。

結びになりますが、摂津市教育委員会事務局の皆様をはじめ、これまで本校の授業研究に対してご指導・ご助言を賜りましたすべての関係者の皆様に、この場をお借りして厚く感謝申し上げます。

令和6年2月9日

摂津市立鳥飼東小学校

校長 中嶋 和明

2. 研究について

1. 研究主題

『「たい」があふれる授業をめざして』 ～心を揺さぶる導入～

2. 研究仮説

単元開きや授業で、心を揺さぶる魅力ある導入にすることで、子どもたちが「やってみたい」「考えたい」と主体的に授業に取り組む態度を育てることができるのではないか。

3. 研究の視点

研究の視点①

・子どもたちが「やってみたい」「考えてみたい」と主体的に取り組もうとする導入であったか。

研究の視点②

・子どもたちが主体的に学習活動を行うための見通しをもたせているか。

4. 主題設定の理由

令和元年度から4年間「言葉で人とつながり学ぶ力の育成」を研究テーマとして取り組み、昨年度が4年次で発展の年となっていた。しかし、子どもたちのアンケートや授業の様子から、学ぶ力の育成の前に、学習に対する意欲が低いという大きな課題があることが検証結果からわかってきた。また、子ども同士のつながりが希薄であるため、学級が安心して過ごせる場所になっていないことも課題として明らかになった。そこで、全教職員で「今の子どもたちには何が足りないのか」「どんな力をつけたいか」を協議し、本年度の研究テーマを設定することになった。子どもたちが「やってみたい」「考えてみたい」「友だちに伝えたい」「友だちの考えを聴きたい」と思えるような単元構成とし、教師も単元の指導事項を踏まえながら「やってみたい」と思えるような授業づくりを本年度の研究テーマとした。1年次となる本年度は「魅力的な導入」をテーマとし、子どもたちの「たい」があふれる授業をめざす。

5. 仮説に基づく取組み

(1) 「単元でつけたい力」を明確にし、逆向き設計の単元計画を作成する。

また、子どもたちにも何ができるようになればいいのか、見通しがもてるように単元の評価規準を提示する。

(2) 言語活動や単元、毎時間の授業の導入を、子どもたちにとって魅力的なものとなるよう普段の授業づくりから意識する。

(3) 導入から、子どもたちの主体的な活動につなげるための見通しをもたせる。

(4) 毎時間の学習のめあてを明確に提示し、授業の終盤で子どもたちが1時間の学習をふり返り、自己評価できるようにする。

6.研究の進め方

(1) 研究発表会・・・3 学期に実施する。

全体会において研究の経過報告を行う。

(2) 研究授業

1 学期・・・相互授業参観

2 学期・・・校内研究授業 2 本、相互授業参観

3 学期・・・研究発表会 1 本、相互授業参観

時期については、年度当初に協議を行い、決定する。

(3) 学習指導案の事前検討会(事前研)

学年部会・研究担当を中心に、研究を進める。夏季校内研で学習指導案の検討会を実施。その後、校内発表前に模擬授業・検討会等を行う。

(4) 研究協議(事後研)

研究についての検証の場とする。授業における児童の学習活動の質、量はどうであったか、課題は克服されたか、改善点は何か、等研究の積み上げになるように行う。

研究授業では、授業参観シートを用意し、研究の視点①②の観点に沿って協議を行う。

研修会では、テーマとゴールを確認し、まとめを行い、全体で共有する。

(5) アンケートの実施

学期ごとに児童アンケート、教師アンケートを実施。結果を分析し、取組みの提案を行う。

(6) 研究の取組み

学力向上の取組み、学年部会、学年の取組み、学習指導案を冊子にまとめる。

(7) 自主研修

授業づくり、学級経営、相談会等、有志による自主研修を行う。

悉皆の校内研修としては扱わないが、行事予定に入れる。

(8) 学年部会の設置

低・中・高学年+支援+担外で学年部会を設置、単学年、単学級で全て取り組むのではなく、学年部会で話し合いながら取組みを進めていく。

3. 校内授業研究

【第1回校内研究授業】

★事前研・・・11月6日(月)

★研究授業・・・11月9日(木)

6年生 社会科「幕府の政治と人々の暮らし」

①子どもたちが「やってみたい」「考えてみたい」と主体的に取り組もうとする導入の手立て

- ・ICTを活用した資料の提示。
- ・各自の考えを自由に黒板へ書く→導入で子どもの言葉を取り上げる。
- ・観点、めあてをわかりやすく示す。

②子どもたちが主体的に活動を行うための見通しをもたせるための手立て

- ・いつもの授業形態で進める(子どもの疑問→意見を黒板に書く→広げる)
- ・自分の立場(主張)をはっきりさせる。

③成果と課題

- ・資料を使って考えるのが難しかったのか、いつもに比べて意見が出なかった。これまでの学習の定着が大切。
- ・知識技能を使ってそのあと思考力をつける。学習のふり返りを、どうやって自分の生活とつなげていくのが難しい。
- ・授業者は子どもたちの実態に合わせて授業を組み立てることを意識していた。
- ・『たい』があふれる授業をめざすには、授業を効果的に使うこと、子どもたちの意見を使うことが必要。

④指導・助言(辻村指導主事より)

子どもたちの実態に合わせて、子どもたちが主体的に取り組める工夫を考えていた。授業は逆向き設計と言われるが、子どもに対しても逆向き設計で考えたかどうか。子どもたちが何の目的でやるのか、ということ在意図的に仕掛けてみてはどうか。どうしても教えたい思いがあると、教師が話し過ぎる。伝えたい情報をいかに言葉ではないもので伝えるか。

指導・助言(濱岡課長代理より)

社会科の指導要領でよく出てくる「多角的な視点」とはどういうことなのか。今回の単元であれば「立場」。立場が変われば考えが変わる。それらを子どもたちが興味のあるところから考えることができれば良いのではないか。キャッチーなもので鎖国を考えることができるといい。

「意欲=興味・関心」ではない。主体とはどういうことなのか。先生がしたいと思うことでないと、子どもたちがしたいと思わない。鳥飼東小の子どもたちに合った方法で、「こういう子どもに育てたい」という思いをもって考えてもらいたい。

【第2回校内研究授業】

★事前研・・・11月27日(月)

★研究授業・・・12月7日(木)

支援学級 自立活動 「中学校に向けてパワーアッププランを完成
させよう。(実行機能力をアップさせよう。)」

①子どもたちが「やってみたい」「考えてみたい」と主体的に取り組もうとする導入の手立て

- ・「中学校の生活」や「自分の将来」という、自身の目標を題材とすることで具体的なイメージをもちやすくする。
- ・自分で目標やスケジュールを立てる。
- ・10個の実行機能力と将来をつなげることで「したい」を引き出す。

②子どもたちが主体的に活動を行うための見通しをもたせるための手立て

- ・スケジュールの取り方、環境整備、ポイント等は子どもにとってストレスがないように意識する。
- ・授業の初めにスケジュールを提示する。
- ・視覚支援、ワークシートを活用する。
- ・子ども一人ひとりに合わせた手立てを講じる。

③成果と課題

- ・子どもと、先生のつながりが構築されており、信頼感をもって取り組んでいる。先生の言葉のかけ方が良かった。
- ・自己解決へと導くための配慮があった。
- ・視覚的な配慮、落ち着いた雰囲気、スケジュールを見て動く、教室の環境が構造化されている。それらのことが安心・安全につながっていた。
- ・子どもの実態に合った取組みになっていた。
- ・児童観がそれぞれの目標につながっていないといけない。全体的に目標がぼやけていた。
- ・保護者や先生の考えも入れることで自分を見直すことにつながるので、入れたらどうか。

④指導・助言(濱岡課長代理より)

環境整備は整ってきている。あとは中身、その子どもに合っているかというところで悩んでいるのではないか。子どもを鍛えて自立する力を養う。そのために子どもたちの主体性が大事。それが「たい」があふれる授業につながる。

本日のキーワードである「実行機能力」とは、目標思考的な思考・行動・情動の制御の力。つまり、自分の力で夢をかなえる力。

環境の調整(時間の構造化、空間の構造化、手続きの構造化)が大切。

キャリア教育を中心とした各学年の取組み 【 Ⅰ 】年

(1) つけたい力

【聞く力・見る力・伝える力・やってみる力】

(2) 取組み

- ・各教科の授業で、児童自身がその時間に向き合う目標として、つけたい力を視覚的にとらえられるように、常に提示してきた。
- ・国語の「自動車図鑑をつくろう」を中心取組みにおき、各教科をそこにつなげた。
 - ①算数「かたちあそび」②図工「はこをつかって」③音楽「音楽会の曲・はたらく車」④生活「手紙でしらせよう」⑤特活「学校の人に伝えよう(ポスター・放送)」
- ・ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、友だちに関心をもち、友だちの言葉を聞いたり、作品を見て感想を伝え合ったりするなど、友だちの素敵なところや真似したいところを見つけ、自分もチャレンジしてみたりする活動を継続して行った。

(3) 児童の様子、ふり返り等

- ・入学当初は、発言や発表に自信がない児童が多い学級であった。今日までつけたい力を意識してきた結果、自分からすすんで前に出て発言し、自信がなく引っ込み思案なタイプの児童でも、順番で発表がまわるときには、堂々と発言ができるようになった。
- ・当初自分の気持ちが言葉に出来ず、行動に出ていた児童が、落ち着いて友だちと関わるができるようになり、言葉が少ない児童でも、ペア学習やグループ学習では、自分で考えたことを相手に伝えることができるようになった。

- ・休憩時間などで、トラブルなどが起こった際に、教師を頼る前に、自分たちで声をかけ合い、対処法を考え、互いの意思確認が行える児童が多くなってきている。
- ・分からないことや不安なことを、自分から友だちや教師に尋ねられる児童が多くなり、困っている友だちを見かけると、ほとんどの児童が自分から声をかける集団に成長している。
- ・自分たちが考えたことや、やってみたいと思ったことを、教師に伝え、アイデアを形にしようと動ける児童が増えた。

第1学年 キャリア教育年間指導計画

2023年度 第1学年 キャリア教育年間指導計画
学年のめあて

きいてキラキラ、つたえてキラキラ、やってみてキラキラ (つながる力) つ

		1学期				2学期				3学期			
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
教科		<ul style="list-style-type: none"> ・あいつの話をおきく。 ・自分の考えやおもいを言葉でつたえる。 ・ドキドキするこじでも、やってみる。 											
行事													
学総会的な時間		<ul style="list-style-type: none"> 2学期から「おまちゃまつり」が楽しかった 2年生に「おまちゃまつり」の話を聞いた 											
特別活動		<ul style="list-style-type: none"> 「おまちゃまつり」 「ずかんを思い出して」 											
道徳		<ul style="list-style-type: none"> 「おまちゃまつり」 「ずかんを思い出して」 											

→ 中心となる内容
 → 地域と連携する内容
 → 異学年で交流する内容

キャリア教育を中心とした各学年の取組み 【 2 】年

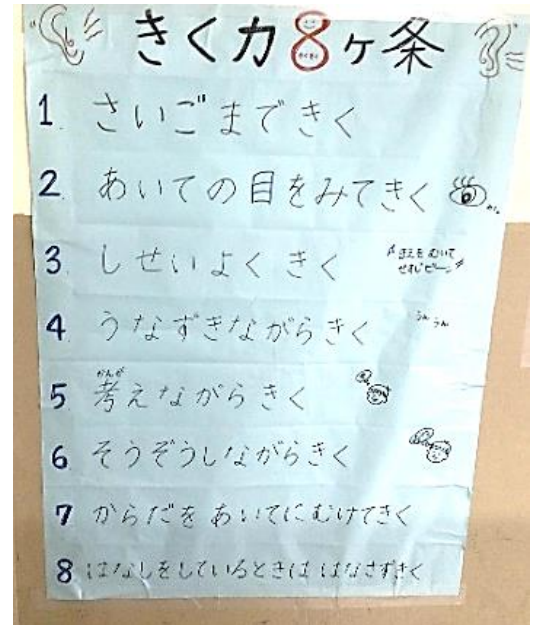
(1) つけたい力

【相手の話をさいごまで聞く】

(2) 取組み

まず、子どもたちによい聞き方について意見を出してもらう。

- ① さいごまで聞く
- ② あいての目を見て聞く
- ③ しせいよく聞く
- ④ うなずきながら聞く
- ⑤ 考えながら聞く
- ⑥ そうぞうしながら聞く
- ⑦ 体をあいてにむけて聞く
- ⑧ 話しているときは、話さず聞く



- ・8個の「聞く」が子どもたちから意見としてあげられた。見える位置に掲示し、今日はその子の「聞く」をめざすのか、自分で選んで意識して「聞く」に取り組んだ。
- ・次に、グループでの活動においてルールの定着を図った。
- ・自分の意見を言う（意見を聞く人は、今日はどの「聞く」をめざすのか決める）
- ・みんなの意見を聞いてから次に進む。
- ・普段の授業の中で、グループ活動が定着してくると、自分たちで順番を決めたり、発表の人を決めたりすることが上手くできるようになってきた。
- ・活動は、1年生との学校探検、町探検、鳥飼小学校とのおもちゃまつり、1年生とおもちゃまつり、東小郵便局を行った。1回目は、必ずリハーサルをして当日の動きを確認した。
- ・終わった後は、グループで振り返りをする中で、自信をもって次の活動につながるようにした。

ポイントとしたことは、

- ・役割分担を明確にする。（目で見てわかるようにしておく）
- ・終わりの15分は、全体で何をしたのかをみんなて共有する。（他よりおけているチームは他のチームの良さを取り入れる。）
- ・失敗を恐れず、まずはやってみる。（ふり返る中で本当にそれで良かったか確認する）を大切にして取り組んだ。

(3) 児童の様子、ふり返り等

最初は、自分の主張を一方的に口に出したり、相手の反応がないままに話していたりすることが多かった。そこで、順番やルールを決めることで上手く活動できるようになってきた。また、グループでの活動では、友だちと協力して学ぶ楽しさを実感できた時間になった。

終わった後のふり返りにも「まだまだ、やりたかった」「つぎは、こんなことがしたい」や、友だちのがんばりをたくさんほめるなど、友だちにふれた内容が書かれたふり返りも多かった。取組み後は、達成感で一人ひとりがとてもいい表情をしていた。



第2学年 キャリア教育年間指導計画

2023年度 第2学年 キャリア教育年間指導計画

学年のめあて
友だちの話をさいごまで聞く (つながる力)

自分たちで考えた
スキルブック
今日の書く は自分決めよう

日常生活
国語「身のまわりの方」
まじく、漢を讀み取る
図工「おもちゃづくり」
自分の思い、思いをひらいてつくつくりする活動
生活「せかいでひとつ わたしのまわりのことを見つかる」
生活「せかいでひとつ わたしのまわりのことを見つかる」

行事
総合的な学習の時間
1年生と学校たんけん
「サボットの仕方」
「ぐわんごの仕方」
「おんごの仕方」
「自分たちで考えた行動計画」
「おんごの仕方」
「ぐわんごの仕方」
「サボットの仕方」
「自分たちで考えた行動計画」

特別活動
係活動
班活動
東小やうびんぐ
どんなふうにするか
いいか、まず自分が
おんごの仕方、ぐわんごの
かいてみる。→異学生で交流する内容
グループで力を合わせる

中心となる内容
地域と連携

キャリア教育を中心とした各学年の取組み 【 3 】年

(1) つけたい力

【つながる力】楽しさを進化させ、みんなが楽しめるお楽しみ会をつくる!

自分が楽しい ⇒ 班が楽しい ⇒ クラスが楽しい

(2) 取組み

- ・学級会の運営を見童が主体的に行うことができるよう、流れ(項目)、台詞、掲示物を作成し、実践した。
- ・議題を子どもたち自身で考え、クラスを自分たちで創っていく実感をもてるようにした。
- ・議題に対し、決まったことを実行してみて、次の学級会で振り返る時間を大切にしました。
- ・普段から会社活動などグループで企画をして準備をすることで、子ども同士の繋がりができるようにした。

(3) 見童の様子、振り返り等

- ・1学期のお楽しみ会は「みんな遊び」のみであったが、2学期はグループでそれぞれ企画を考え、準備をすることができた。
- ・自分たちで「企画-準備-実行-振り返り」をすることで、頭の中で想像していた内容と現実に行ったときの違いを感じるようになってきた。
- ・学級会の司会グループを「やりたい!」という見童が多くみられるようになった。自分たちで進めることが楽しいと感じ実行できるようになってきている。
- ・クラスのみんが楽しめるにはどうしたらいいか、考えられるようになってきていると感じる。

以下児童のふり返り

- ・時間を考えながら取り組むことができた。
- ・企画と準備でグループのメンバーと協力できた。
- ・リハーサルができた。リハーサルをしても、当日は思っていた内容と違うようになった。
- ・友だちが困っているときには教え合う雰囲気がある。
- ・互いを褒めたりあたたかな声かけができたたりした。
- ・台詞の練習をもっと増やすことでよりよいものができる。
- ・プラスの声かけをして、モチベーションを高めることが大切だと思った。

第3学年 キャリア教育年間指導計画

2023年度 第3学年 キャリア教育年間指導計画

学年のあて

楽しさを進化させ、みんなが楽しめるお楽しみ会を作ろう！（つながる力）
自分が楽しい→班が楽しい→クラスが楽しい

	1学期				2学期				3学期				
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
日常	班長会議・班あそび・ふりかえり→次の目標												
教科	学級会 音楽会の目標決め			秋の遠足の目標決め バスの乗降決め			国語「はんで読書まのよう」 ・グループ活動		はんで、 1/4のお楽しみ会 について意見を 求めたね！				
行事	学級活動			やってみての ふりかえり			国語「クミクミックス」 ・力をあわせ		体育「ネット型ゲーム」 ・グループ活動 ・ふりかえり			国語「くぎうちんどん」 ・ふりかえり	
学級活動	会社活動 「クラスの楽しみや、友だちのためにできることを考えたね！」			学級会(決めてどうなったか、自分たちでクラスを作っていくことを計画できる)			会社活動		お楽しみ会の企画をしよう ・グループ活動		「3年×5科目」 よびかけ隊、認め合い		
特別活動	会社活動			会社活動			会社活動		会社活動		会社活動		
道徳	「係の仕事に取り組む」 「嫌まりのない係」			「係の仕事に取り組む」 「嫌まりのない係」			「係の仕事に取り組む」 「嫌まりのない係」		「係の仕事に取り組む」 「嫌まりのない係」		「係の仕事に取り組む」 「嫌まりのない係」		

中心となる内容 →
 地域と連携する内容 →
 異学年で交流する内容

キャリア教育を中心とした各学年の取組み 【 4 】年

(1) つけたい力

「聞く力」友だちのアドバイスを素直に聞くこと。

「見通す力」今何をするのか考える。何をするのか決める。

「調整する力」周りをよく見て、自分の気持ちを伝えること。

(2) 取組み

- ・学級会では、学級委員長を中心とした取組みを行い、クラスのいいところとみんなが過ごしやすい
くするためにはどうすればいいのか、意見を出し合って考えた。
- ・音楽会や社会の伝統工芸など、これから取り組む中で、何がしたいのか、子どもたちが考えて
意見を出し合う機会を設け、実行するためにはどうすれば良いのかを話し合って実行した。
- ・子どもたちが取り組んだことについて、ふりかえりをする時間を作り、友だちからの意見を受け
止め、自分自身の考え方や行動について見つめ直した。

(3) 児童の様子、ふり返り等

- ・学級会を通してみんなの意見を最後まで聞こうとする姿勢が見られた。
- ・学級会を通じて、みんなが過ごしやすいできるように、主体的に考え、意見を出し合い、行動に移
そうと 努力している姿勢がみられるようになった。休み時間もクラスの課題を解決するための
様々な方法を 教師に提案していた。
- ・伝統工芸のリーフレットを作りたい、と子どもたちからの意見があり、作ることができた。続いて
その作品を学校の人みんなに見てもらいたいと提案があり、給食の時間に放送をかけ、全校児
童に呼びかけを行うなど、楽しんで主体的に取り組む姿勢が見られた。

- ・トラブルが起こった時、自分の気持ちを抑え、人の話を最後まで聞こうとする姿勢が見られるようになった。
- ・トラブルや困っている人がいると、友だち同士で声を掛け合い、助け合うことができていた。
- ・子どもたちが目標を考え、決めることで最後まで取り組もうとしている姿勢から、この取り組みの大切さに気付いた。

第4学年 キャリア教育年間指導計画

2023年度 第4学年 キャリア教育年間指導計画

学年のめあて
 ①聞く…友だちのアドバイスはすなおに聞きます。(つながる力) つ
 ②見通す…今何をするかを考えます(きめる力) き
 ③調整…みんなのもちあじを大事にします。(つながる力) つ

	1学期			2学期				3学期				
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日常												
教科												
行事												
学習的 時間												
特別活動												
道徳												

中心となる内容 地域と連携する内容 異学年で交流する内容

キャリア教育を中心とした各学年の取組み 【 5 】年

(1) つけたい力

【「えがく力」(自信をもつ、方法を考える、計画を立てる)】

自ら目標を立てたり、計画したりすることに課題がみられた。そこで、基礎的・汎用的能力の育成において、特に「えがく力」を学年の「つけたい力」として設定した。

(2) 取組み

○年間計画

5年生は、学校の代表として連合音楽会に出場することから、中心取組みを「音楽会に向けて」とし、各行事・各教科を音楽会に向けた取組みと、どのようなつながりがあるのかを整理し、横断的に取組みを行った。国語科や図工科と関連付けて、保護者への招待状を作成し、保護者とのつながりを意識させた。



○学級会

定期的・臨時的に行う学級会では、「音楽会に向けて」「給食」「席替え」「お楽しみ会」「学級のルール」「卒業式に向けて」など、議題箱を設置し、児童が課題と感じていること、児童からの「〇〇してみたい」という興味・関心の高いことを出発点とし、学級で話し合った。司会・黒板書記・ノート書記を指名し、毎回「全員参加・全員発言」を目標としている。班での話し合いや意見集約、全体共有など、流れをシステム化して、見通しをもって参加しやすくしている。

○会社活動

当番と係活動の違いを整理しながら、どのような会社をつくり、どのように運営していくことで、学級活動が活性するか、学期に一度話し合う機会を設けている。「ニュース会社」や「阪神会社」「クイズ会社」「生き物逃がし会社」といったユニーク会社が設立され、すき間時間を利用し運営されている。

○教科指導

日々の教科指導においては、知識・思考力を身に付けるだけでなく、児童が自己指導能力を身に付けることができるよう生徒指導上の目標を意識した。特に「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の設定」においては、例えば、考えを共有する場面など、ICTを活用しながら、児童が主体的・共同的に学ぶことができるよう働きかけた。



(3) 児童の様子、ふり返り等

成果

「音楽会に向けて」を中心取組みに据え、各行事を進めてきた。その都度、目標に立ち返って自分たちで話し合いながら進めてきた。その点においては、「目標を立て、実現するための方法を考え、計画する」といった「えがく力」の醸成にはつながったのではないだろうか。

学級会では、児童が自由に意見やアイデアを出し合う機会が増え、クラス全体のコミュニケーション力が向上した。例えば、協議の中で、善悪の判断に自ら気づいたり、食い違う意見同士、折り合いのつけ方や妥協点(折衷案)を探したりするようになった。また、自分たちで話し合い、決定したことに対しては、授業においても、行事においても積極的に参加する姿が見られるようになった。

会社活動においては、メンバー同士の連携やコミュニケーションが円滑になり、会社活動の進行がスムーズに行われるようになった。また、創造的なアイデアを出し合う機会となり、「新聞の発行」や授業の一こまを使った「クイズ大会」など新しい取組みや活動を促進した。

課題

・児童の課題

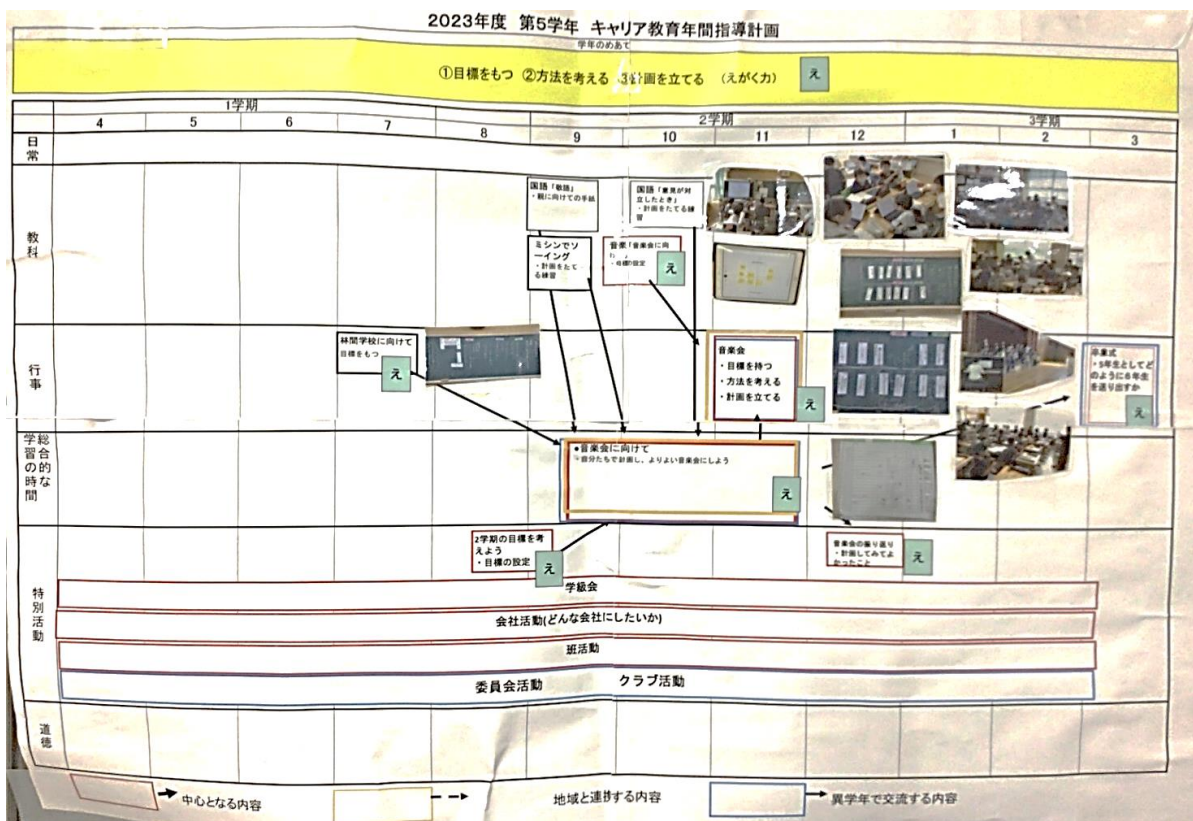
自らの課題を認識し、目標を設定することは、できるようになってきた。しかし、目標に対しての取り組み方や課題解決の方法を計画することには、教師や友だちの助言やサポートが必要である。また、サポートをされる上でのアドバイスのもらい方や聞き方、協働することにまだまだ課題が見られるため、「つながる力」も意識的に指導していく必要があると感じた。

・取り組む上での課題

学級会において、子どもたちが行うことのため、計画通りにはならないことが多々あり、時間がかかる。週1時間の特活が週3時間になることもある。年間35時間の特別活動の中で、学校行事、委員会活動・クラブ活動と合わせて、学級活動を行うことは、時間数の割り振りの上で頭を悩ます課題である。今年度どれだけ特別活動に時間を使ったのか、総授業時数当たりにおける割合を検証する必要がある。

また、子どもに委ねる難しさがある。人権意識の観点から見て、今の発言は、、、ということも多々ある。教師がしゃべらない学級会が良い学級会だとする考えには疑問を感じている。人権上の問題であったり、学級会の「安全・安心な風土」が乱れていたりする場合は、当然介入すべきである。また、学級担任も学級もつくり上げる一人と見るならば、質問や意見をしても良い。押しつけたり、黙らせたりしないクラスの雰囲気づくりが大切である。そうであるならば、どこで介入するか、どのように介入するか、のタイミングが教師側には問われてくる。

第5学年 キャリア教育年間指導計画



キャリア教育を中心とした各学年の取組み 【 6 】年

(1) つけたい力

【つながる力(聞く・話す・伝える)】

本学級では、相手意識が大変低い児童や自分の気持ちを伝え、折り合いをつけながら人と関わっていくことが苦手な児童が少なくない。聞きたいことや困ったことがあっても、誰にも聞けずいたり、仲のいい友だちに自分の言いたいことを代弁してもらったりする。来年度から中学へ進学することから、鳥飼小学校の児童とも同じ学校に通うこととなる。その時に、自分の狭い世界だけでなく、人とつながり生きていくことが重要だと考えた。そのため「つながる力(聞く、話す、伝える)」をテーマとした。

(2) 取組み

中心取組み

- ・戦争の歴史について聞いたこと、知ったことを友だちと自分の考えを共有していった。その過程で意見の相違や、新たな疑問を話し合うことで、思考力を深めていった。
- ・平和集会の発表に向けて、どんなことを他の学年や先生たちに伝えたいか、伝え方はどうすればいいか、どのような態度がよいかを、子どもたちに考えさせた。
- ・平和集会の後、自分にどんな力がついたのか、ふりかえりを行った。

国語

- ・他の学年の児童とつながるために、「みんなで楽しく過ごすために」の単元では、各学年に合った遊びを考え、計画を立て、実行した。

社会科

- ・戦争がどのようにして起きたのかなどの歴史を学び、聞いて知ることから始めた。過去のことでなく、今を生きる自分たちとつなげて、自分事として考えるよう支援した。
- ・学習したことを踏まえて、さらに疑問をもったことを学習し、考えを深める取組みも行った。

総合的な学習の時間

- ・国際理解教育や人権学習を通して、性の多様性や差別・偏見についてなどを学んだ。
- ・SST(ソーシャルスキルトレーニング)を行い、周りの人とつながる方法を学んだ。
- ・実際に海外で留学をしている方とつながり、話を聞いたり、質問したりしたことで、多文化に触れる機会を設けた。

特別活動

- ・クラスの友だちとつながるために、「友だちのいいところ探しカード」を作り、書けるようにした。
- ・各学年の児童とつながるために、折り鶴の折り方を教える活動を行った。
- ・ふりかえりカードを通じて、毎日自分の行動をふりかえり、明日への行動につなげた。
- ・クラスの友だちとつながるために、ふりかえりカードに友だちからのメッセージ欄を設けた。友だちの行動に焦点を当てたり、話したりするきっかけを作った。

- ・クラスの友だちとつながるために、スピーキングテストの後や発表の後は、みんなで拍手することを決めて行った。
- ・クラスで問題があったとき、子どもに問いかけて、話をさせた。
- ・クラスの全員で協力して達成できそうな目標を立て、その達成のために活動した。

(3) 児童の様子、ふり返り等

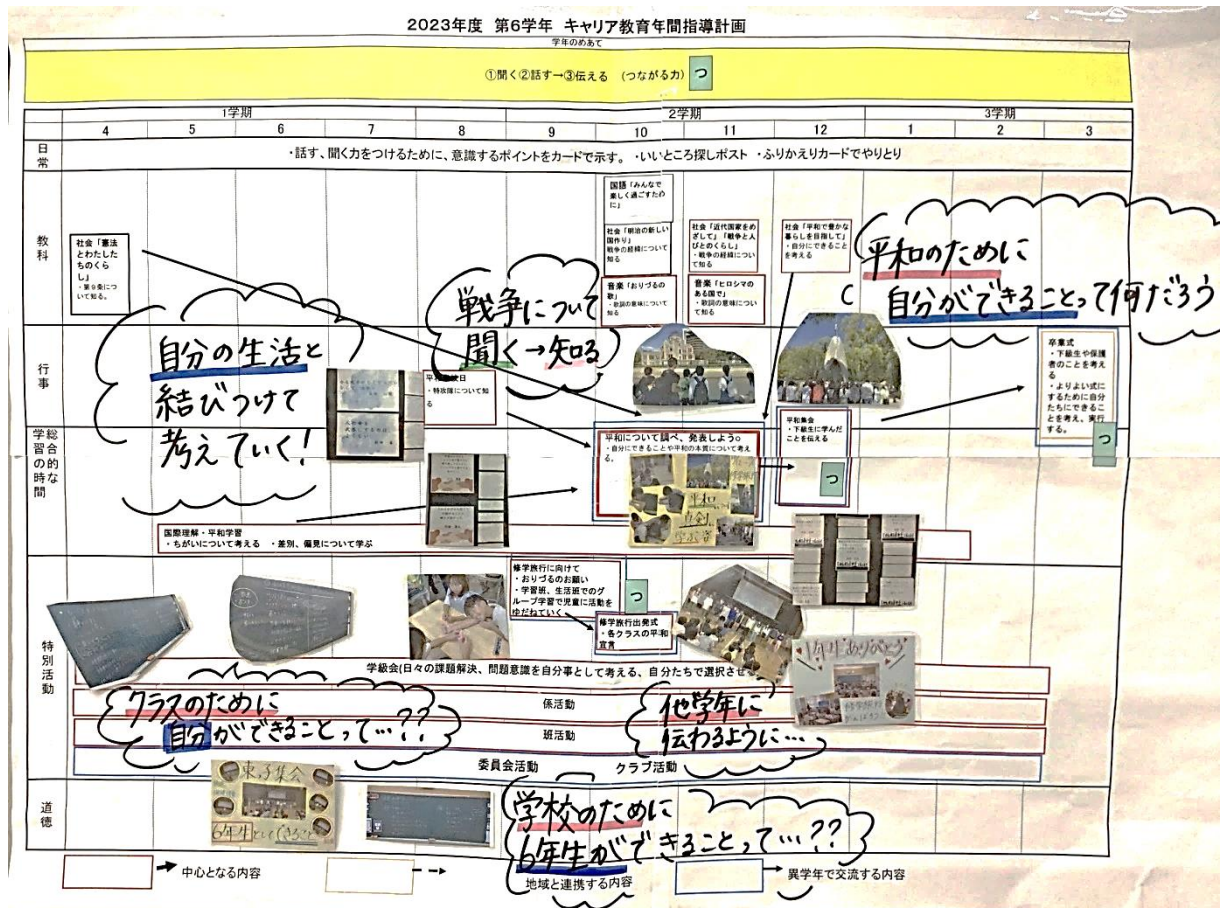
成果

- ・平和集会の後に行ったふり返りでは、「自分と結びつける力」「戦争の恐ろしさについて伝える力」「自分の考えを深める力」などが身についたと書いていた。
- ・クラスの友だちへの関心が高まった。(大縄跳びで友だちが成功すると、自然と拍手が出る。友だちの給食がこぼれたときに、さっと手伝うことができる。わからないときに友だちに聞くなど)
- ・生活アンケートでは、「みんなで何かをするのは楽しい」という項目で、肯定的な回答が91.8%だった。
- ・過去のことと今の自分をつなげて、考えることができるようになった。
- ・SSTで学んだことを生かそうとする様子が見られた。

課題

- ・人とつながるための方法をSSTで学び生かそうとするが、時間が経つと忘れて継続できない。
- ・人権学習や国際理解の学習を行ったが、なかなか定着する様子が見られなかった。

第6学年 キャリア教育年間指導計画



キャリア教育を中心とした取組み 【 あおぞら学級 】

(1) つけたい力

【自立していく力(コミュニケーション能力)】

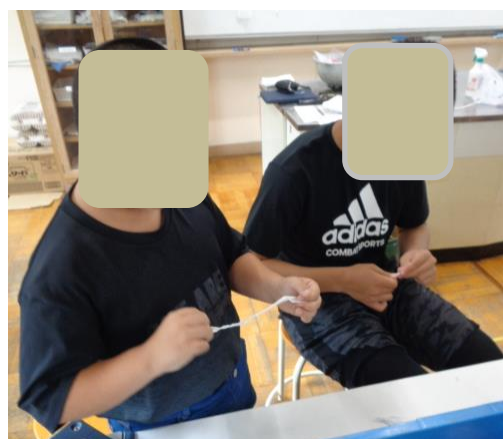
支援学級の児童のなかには、人間関係の築きにくさや自己肯定感の低さ、将来への不安や希望の欠如など、様々な困難に直面している子どもたちがいるという現状がある。子どもたちは自分の強みや課題と向き合いながら、自分が何を大切にするのか、何を生きがいとするのかをそれぞれが考えていく必要がある。支援学級ではキャリア教育の軸として、話し合い活動を通して意思決定をしていくことで、自立していく力をつけていきたいと考えた。将来への自立や社会参加に向けて、特に「コミュニケーション能力」を意識した取組みを進めてきた。

(2) 取組み

○自立活動

週に一時間、全学年のあおぞら学級の児童が集まる授業のなかで、工作・実験・運動・調理など様々な活動を行った。その中で、他学年とのグループ活動や話し合い活動を随所に織り交ぜていった。

ヨーヨーつりの活動では、「縁日」「こより」という言葉に触れたり、「破れにくいこよりにするにはどんな素材でどんなねじり方がよいか」を話し合ったりした。活動の中でコミュニケーションをとれる時間を積極的に確保することで、新しい発見をする子どもの姿もあった。



また、フラフープ転がしやドッジボールなどの運動遊びでは、意図的にペアで協力することやチームで声をかけ合う必要性が生まれるようなルールで活動した。学年や体格が違って、ルールを守るとみんなが楽しめるという経験を積むこともできた。



○自立課題

支援学級では毎時間自立課題を活用した一人で学習に取り組む時間を設けている。子どもたちがこれから自信をもって多くの人とコミュニケーションをとっていけるように、学校生活だけでなく社会に出たときの姿を見据えた自立課題を設定した。

文づくりの課題では、5W1Hに言葉を仕分け、順番に並べて文を作る学習を行った。文章を組み立てることが苦手で、順序だてて話せず固まってしまうという児童が組み立てを考えて書いたり発表したりすることにつながる基礎的な活動となった。

(3) 児童の様子、ふり返し等

支援学級での学習は、少人数で集中して学ぶ場が強みになると同時に、人間関係の構築においては弱みにもなりえると感じた。特に支援学級児童は、自分を表現しづらかったり相手の気持ちを受け取りにくかったりするので、意図的な仕掛けが必要だった。セリフまで提示してコミュニケーションをとる機会を設けることで、みんなが安心する温かい関わり合いが見られた。

また他学年と授業で毎日ともに過ごす経験を通して、下級生は上級生を頼り、上級生は下級生を助けるなどして、伝える・聴く・読み取る力を少しずつ身につけていく様子が見られた。ただ、支援学級で積み上げたことを通常学級で般化するということが、児童にとって結び付きにくい印象だった。クラスメイトとのコミュニケーションがうまくとれずに不安を抱えたまま過ごしたりトラブルにつながったりするケースもあった。子どもが自分の課題や目標を理解して困り感を周りの人に伝えられる力がこれからの課題となった。

(参会者の皆様へお配りした印刷資料には、この後、令和5年度「こどもの発達を支える生徒指導に関する調査研究事業」の取組み報告が続いております。)

→ もう1つのPDFファイルをご参照ください。

社会科 学習指導案

摂津市立鳥飼東小学校

授業者 白石りょう

研究主題「『たい』があふれる授業をめざして」～心を揺さぶる導入～

研究仮説「単元開きや授業で、心を揺さぶる魅力ある導入にすることで、子どもたちが「やってみたい」

「考えたい」と主体的に授業に取り組む態度を育てることができるのではないか。

1. 日時 令和5年11月9日(木) 第6時間目 (14:30~15:15)

2. 場所 6年1組教室

3. 学年・組 6年1組(28名)

4. 単元(題材)名 幕府の政治と人々の暮らし

5. 単元(題材)の目標

- 武士による政治が安定したことについて理解するとともに絵画資料や文化財、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。【知識・技能】
- 江戸幕府の政治の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。【思考力・判断力・表現力】
- 江戸幕府の政治について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養う。【主体的に学習に取り組む態度】

6. 教材観

本単元は、学習指導要領第6学年の内容(2)「ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。(キ)江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解すること。」を受けて設定したものである。大名を親藩、譜代、外様の三つに分けて全国に配置したこと、徳川家光の頃に参勤交代が制度として確立したこと、キリスト教の信仰を禁止し、貿易を統制し渡航を禁止するなど海外との交流を制限する政策を進めたことや武士を中心とする身分制度が定着したことなどについて学習し、これらのことを手掛かりに武士による政治が安定してきたことを理解することをねらいとしている。

7. 児童観

社会科の学習において、毎単元ごとに評価カードを配付し、児童と共有してきた。そのため、本学級の児童は、高い目標に近づけるようノートの書き方を工夫したり、板書の内容だけでなく、友だちの考えもまとめたり、自分自身が疑問に思ったことを書き込んだりと積極的に参加する様子が見られる児童も少なくない。その反面、板書をするだけで満足し、受け身的な態度で授業に臨む児童も少なくない。また全体的に、学習課題に対しての予想を立てたり、資料から分かることをまとめたりするような自分の考えを表現する活動になると、自分の考えをもてない、正解を気にして書けないなどの理由で、消極的になってしまう児童が少なからずいる。

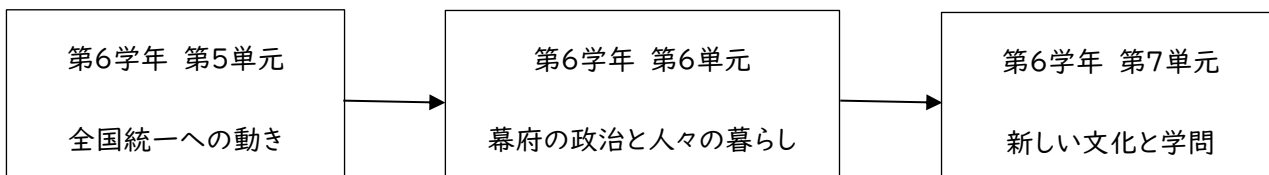
8. 指導観

今回の学習では、社会的事象の特色や相互の関連や意味を多角的に考える力を養うことに力を入れて指導していく。社会的事象の意味を多角的に考えるとは、学習指導要領解説によると「児童が複数の立場や意見を踏まえて考えること」と示されている。複数の立場や意見に気付くためには自らの考えの一面性に気付かせ、その社会的事象には別の立場から見た考えがあることを認識させることが重要であると考え。まず、自分の考えをもたせることが必要だ。児童観でも述べたが、本学級は自分の考えをもつことが苦手である児童が多い。そのため、賛成か反対かなど立場をはっきりできる問いかけや自分だったらどうするかと考える問いかけを行っていく。また、自分の考えをもつ手掛かりになるよう、毎時間の学習で資料を使って読み取る練習を行っていく。自分の考えをもち、全体で共有する。その過程で児童は他の立場や考えを知り、自分の考えに一面性があったことに気付いていく。今回の学習では、他者の考えを知り、「いろいろな考え方の人がいる。」ことに気付くだけで終わらせないように留意したい。他の立場から見た考えがあることを認識させる。その後、自己の考えに他の立場から見た考えを踏まえて、修正・再構築し、深まった考えを児童が書くことのできるように指導していく。

研究主題「『たい』があふれる授業をめざして」～心を揺さぶる導入～とあるように児童が「おもしろそう。知りたい。学習したい。」と思える導入になるよう工夫していく。そのため、児童の疑問を生かした導入にする。授業の前に前時の授業で児童がノートに書いた質問について答えていく。それは学習内容が深まってくことや、児童の「もっと知りたい。」という興味・関心をもつことにつながると考える。また、資料を提示して、江戸時代の世の中の様子や人物の働きについて問いかけをし、疑問をもたせ、学習意欲を高めていきたい。

9. 本単元の学習の関連と発展（単元の系統について）

江戸時代に入る前に、児童は、3人の武将と天下統一の学習で、織田信長や豊臣秀吉、徳川家康がどのような政策を行い、天下を統一してきたのかを学習している。そして、この教材は、参勤交代や武家諸法度などに代表される大名統制、江戸時代の身分制度と農民統制、キリスト教に伴う鎖国という3つの視点からとらえさせ徳川家光を中心とした江戸幕府の支配の仕組みが学習できる。



10. 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・世の中の様子、人物に働きや文化遺産などについて、絵画資料や文化財、統計や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、参勤交代や鎖国などの幕府	・世の中の様子、人物に働きや文化遺産などに着目して、問いを見出し、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制度について考え、表現している。	・江戸幕府の政治の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

<p>の政策、身分制度について理解している。</p> <p>・調べたことを年表や図表などにまとめ、武士による政治が安定したことを理解している。</p>	<p>・参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制度を関連付けたり、総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。</p>	
---	--	--

11. 単元の指導と評価の計画

時	学習内容	【観点】主な評価規準・(評価方法)等
第1時	大名行列の想像図を読み取り、大名行列が行われるようになった理由を考え、江戸幕府の政治の仕組みや社会の様子について疑問を書く。	<p>【思・判・表】大名行列の想像図から、なぜ行われているのか予想を立て表現している。</p> <p>(ノート・発言)</p> <p>【態度】大名行列がなぜ行われているのかについて、進んで考えようとしている。</p> <p>(行動観察・発言)</p>
第2時	大名の配置図や武家諸法度、参勤交代の制度などを調べ、江戸幕府の大名支配の仕組みを捉える。	<p>【思・判・表】江戸幕府の政策から、大名支配の考え方や、その仕組みについてわかったことをふりかえりに書いている。(ノート)</p>
第3時	身分制度のもとでの人々の暮らしを調べ、江戸幕府の人々に対する支配の仕組みを捉える。	<p>【思・判・表】江戸幕府の人々に対する支配の仕組みについてわかったことをふりかえりに書いている。(ノート)</p>
第4時	鎖国の経緯や内容を調べ、鎖国政策が幕府の支配に及ぼした影響を捉える。	<p>【知・技】鎖国の経緯などから鎖国政策が幕府の支配を強めたことを理解している。</p> <p>(ノート・発言)</p>

第 5 時	鎖国下での江戸幕府の外国との交流を調べ、幕府の外交政策や交易の様子を捉える。	【思・判・表】鎖国のもとで行われた近隣諸国との交流が与えた影響について考え、表現している。(ノート)
第 6 時 本 時	江戸幕府の政治によって、武士の政治が安定したことを捉え、幕府の政策と人々の暮らしや社会の様子を関連付けて考え、鎖国に賛成か反対かの意見をもつ。	【思・判・表】今まで学習してきたことをもとに、鎖国について賛成か反対か自分の立場をはっきりさせ、自分の考えを表現している。 (ノート・発言) 【態度】学習課題の解決に向けて、進んで考え、話したり聞いたりしている。(ノート・行動観察)

12. 本時の展開

(1) 本時の目標(第6時)

- ・江戸幕府の政治によって、武士の政治が安定したことを捉え、幕府の政策と人々の暮らしや社会の様子を関連付けて考え、表現する。

(2) 本時の評価規準

- ・今まで学習してきたことをもとに、鎖国について賛成か反対か自分の立場をはっきりさせ、自分の考えを表現している。【思・判・表】
- ・学習課題の解決に向けて、進んで考え、話したり聞いたりしている。【態度】

(3) 本時の判断基準

A 十分に満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する児童への支援
鎖国について賛成か反対か自分の立場をはっきりさせ、これまでの学習に結び付けた理由も書いている。	鎖国について賛成か反対か自分の立場をはっきりさせ、その理由も書いている。	今までの学習を振り返る時間を設ける。 ペア学習を取り入れる。

自分の考えと友だちの考えを立場ごとに分けて、まとめている。	自分の考えと友だちの考えを書いている。	ペア学習を取り入れる。 個別の声掛けを行う。
-------------------------------	---------------------	---------------------------

(4)本時の展開

流れ	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価(評価方法)
導入 10分	江戸幕府の鎖国政策について振り返る。 ・キリスト教の禁止 ・貿易の統制 ・渡航の禁止 など めあての確認をする。	ノートを見直させ、具体的な内容を思い出させる。	
	鎖国について賛成か反対か今までの学習をもとに考えよう。		
展開 30分	黒板に自分の意見を貼る。 賛成か反対か。 なぜ賛成・反対するのか理由を書き、それぞれの意見を共有する。	どの立場にたって考えるかによって、意見が変わっていることをおさえる。	鎖国について賛成か反対か自分の立場をはっきりさせている。【思判表】(行動観察) 自分の考えと友だちの考えを書いている。【態度】(ノート)
終末 5分	まとめ ふりかえり	鎖国によって武士の政治が安定したこと、それによって人々の暮らしが変化したことを捉えさせる。	

支援学級 学習指導案

摂津市立鳥飼東小学校

授業者 佃 和彰

研究主題「『たい』があふれる授業をめざして」～心を揺さぶる導入～

研究仮説「単元開きや授業で、心を揺さぶる魅力ある導入にすることで、子どもたちが「やってみたい」「考えたい」と主体的に授業に取り組む態度を育てることができるのではないか。

1. 日時 2023年12月7日(木)第6時間目(14:30～15:15)
2. 場所 4階 ひまわり教室
3. 学年・組 自閉情緒学級
4. 単元(題材)名 中学校に向けてパワーアッププランを完成させよう。(実行機能力をアップさせよう。)
5. 単元(題材)の目標 中学校に向けての見通しをもち、自立に向けて自分を知るとともに、自ら行動する力をつける。
○自立活動の内容(6区分27項目)
3 人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。

個別目標

児童 A	児童 B	児童 C
・自分の得意と苦手を知る。 ・自分の気持ちをコントロールする方法を見つける。	・自分の得意と苦手を知る。 ・見通しをもつために必要なことを知る。	・自分の得意と苦手を知る。 ・自分の決めた進路にはどんな力が必要かを考える。

6. 児童観

児童 A	児童 B	児童 C
	個人情報保護の観点から、 内容を割愛しております。	

7. 指導観・教材観

本単元では中学校に向けて、自分の夢（どんな人になりたいか）を考え、実現に向けて自己理解を踏まえてパワーアッププランを完成させることが目的である。

指導にあたって単元目標を達成するために、3人の児童に必要となる力が実行機能と考えている。実行機能とは、解決したいことに対して、満足いくような結果を得るために総動員する様々な能力のことである。支援学級に在籍する児童はこの実行機能の弱さがあり、ASD や ADHD などの行動特徴も実行機能と深く結びついていると言われている。実行機能には様々な力（アイテム）があり、プランニングや優先順位、時間管理、SOS をだすなど、物事を進めていくうえで必要となる力である。本学級の児童には、中学校に向けて、自立に向けて、まず自己理解を行い、それぞれに必要な実行機能は何かを考える。その力を身に付けるために必要な活動を自ら選択し、授業を進めていけるようにしていきたい。その中で自分の力でプランニングすることが重要と考える。しかし、児童にとってプランニングは難易度の高い課題と考える。その課題を乗り越えるために、中学校だけでなく、将来になりたい姿ややりたいことなどを具体的に考えさせ、この授業の必要性を持てるようにしていく必要がある。そしてプランニングの際には、見本を提示し、選択肢を準備して、児童の思考が止まらないようにしていきたい。プランニングが終わった後には、個別に支援学級での学習を通して、実行機能カステップアッププランワークシートを用いて実際に活動を行っていく。

研究主題に対して、支援学級では、児童の興味・関心、好きなことから個別の指導計画を作成しており、児童が前向きに授業へ参加できるように考えている。それを踏まえて今回の授業では、児童の向かいたい未来を具体的にイメージすることや、実際に将来役に立つ能力であることを丁寧に説明し理解してもらうことで、やらされている授業ではなく、それぞれの児童が実行機能の必要性を感じ「面白いからやってみよう」「自分にとってメリットがあるからやってみよう」「暮らしやすくなる（便利になる）からやってみよう」などという前向きな気持ちになるように支援・指導を行っていきたい。

また今回の授業を進めるにあたって、「体験しながら育もう実行機能ステップアップワークシート」（2022 年かもがわ出版）をメインの教材として活用していく。本書では自己理解、プランニング、実践、振り返りという実行機能を身に付けるための学習の流れや実践方法が掲載されており、これを活用して、今回の授業の目標である自立に向けた力を児童に身に付けさせていきたい。

8. 単元(題材)の評価規準

評価:◎…一人でできた ○…支援や声掛けによりできた △…まだできていない

児童A	児童B	児童C
<ul style="list-style-type: none"> ・目標から必要な力を考えることができる。 ・必要な力を身に付けるための計画を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の苦手さを具体的にイメージできる。 ・考えた苦手さを克服するための計画を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本を見たり人から話を聞いたりしながら計画を立てることができる。 ・苦手さを踏まえた計画を考えることができる。

9. 単元の指導と評価の計画(単元計画)

時	学習内容	準備物
1	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校はどんなところ?イメージをもつ。 ・第五中学校のパワーポイントを使って具体的なイメージをもつ。 	パワーポイント
2	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校生活の中でどんな力が必要か考える。 	ワークシート
3	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を知る。 ・実行機能力ws(ワークシート)を使って自己分析をする。 	ワークシート
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のパワーアッププランを考える。 ・自分につけたい力を考え、プランを作る。 	ワークシート
5	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーアッププランのふりかえり 	計画書

10. 本時の展開

(1) 本時の目標

自分に合ったパワーアッププランを考えることができる。

(2) 本時の評価規準

単元の評価規準に準ずる。

(3)本時の展開

流れ	学習内容・学習活動	指導上の配慮事項		
		児童 A	児童 B	児童 C
めあての確認	あいさつ			
	スケジュールの確認	・個人のスケジュールを準備しておく。		
	めあて 自分のパワーアッププランを考えよう。			
みんなで勉強				
	流れを確認する。 教師のプラン(WS)を例示する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のプランを例示して、WSのなかで記入すべきことを明確にする。 ・文字と写真を使って視覚的に指示す 		
実行機能力WS 一人で考える	先生と勉強もしくは一人で勉強			
	<p>①先生と勉強</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行機能アイテムチェックリストを確認する。 ・それぞれアイテムの点数にした理由を付箋に記入する。 ・交流の練習をする。 <p>②一人で勉強</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で使用したwsを棒グラフに表して、自分の力が可視化できるようにする。 ・①をおこな ・②をおこな ・定型文を用意しておく。(先生と勉強) ()が(とくい・にがて)だから。 ・②をおこな ・一人でできる課題を用意しておく。(一人で勉強) 	<ul style="list-style-type: none"> ・①をおこな ・②をおこな ・①をおこな 	<ul style="list-style-type: none"> ・②をおこな
	まとめ			
交流	発表する。 自分のプランについて説明を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表テンプレートを用意して、発表できるようにす ・定型文を用意しておく。 これが私のプランです。 私は()の力が得意です。 ()の力が苦手です。 とくに()の力をアップしたいです。 		
	交流 友だちのプランをみて、できているところを評価する。 次時の確認、振り返り。	<ul style="list-style-type: none"> ・付せんに友だちのプランをみて、できているところを探す。 ・先生と勉強でどうやって探すかを指導しておく。 		

体育科 学習指導案

摂津市立鳥飼東小学校

授業者 鈴木 友二

研究主題 「『たい』があふれる授業をめざして」～心を揺さぶる導入～

研究仮説 「単元開きや授業で、心を揺さぶる魅力ある導入にすることで、子どもたちが「やってみたい」「考えたい」と主体的に授業に取り組む態度を育てることができるのではないか。

1. 日 時 令和6年2月9日(金) 第5時限(13:40～14:25)

2. 場 所 体育館

3. 学年・組 1年1組22名(男子:12名・女子:10名)

4. 単元(題材)名 ひみつのことばで大へんしん!キララン!

5. 単元(題材)の目標

- ・表現遊びの行い方を知るとともに、身近な題材の特徴を捉え、そのものになりきって全身で即興的に踊ることができるようにする。【知識・技能】
- ・身近な題材の特徴を捉えて踊る表現遊びの簡単な踊り方を工夫するとともに、よい動きを見つけたり、考えたりしたことを友達に伝える。【思考力・判断力・表現力】
- ・表現遊びに進んで取り組み、場の安全に気を付けようとする。【主体的に学習に取り組む態度】

6. 教材観

本単元は、主として学習指導要領の次の内容を受けて設定している。

第1学年及び第2学年 F表現リズム遊び

表現リズム遊びについて、次の事項を身につけるよう指導する

- (1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、題材になりきったりリズムに乗ったりして踊ること。
 - ア 表現遊びでは、身近な題材の特徴を捉え、全身で踊ること。
- (2) 身近な題材の特徴を捉えて踊ったり、軽快なリズムに乗って踊ったりする簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりすること。

本単元の表現遊びは、身近な題材の特徴を捉えてそのものになりきって全身の動きで表現したり、友達と様々な動きを見つけたり、みんなで調子を合わせて踊ったりする楽しさに触れることのできる運動遊びである。

表現遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、即興的な身体表現能力の育成、コミュニケーション能力の向上をねらいとしている。

7. 児童観

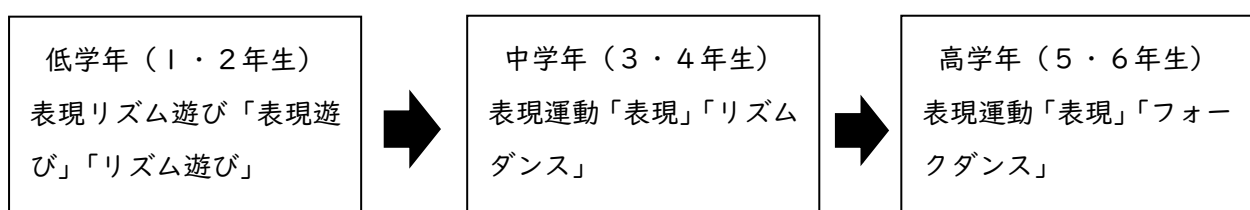
本学級の児童は、入学してからこれまで様々な教育活動において教師が「○○しましょう」と伝えると、意欲的にまじめに取り組むことができる。1学期には、表現リズム遊びとして運動会に向けて2年生の児童と合同でダンスの練習を行った。リズムに乗って小刻みにジャンプして弾む動き、ねじる、回る、移動するなどの動きを繰り返し練習してきた。また、曲の一部分にリズムの特徴を捉えた動きを自分で見つける活動も行った。2学期以降、学級活動をはじめ様々な教科で自分がしたいことや挑戦したいことを児童自らが主体的に考え、選び、決定する機会を作ってきた。体育科の授業においても、自己選択・自己決定できる機会をたくさん設定してきた。これらの取組みの中で児童の多くは、自分のやりたいことを考え、選択しながら、自己を表現し行動することができるようになってきた。本単元では、これまでの取組みを元に自分で考えた動きを全身で表現し題材になりきる姿をめざしたい。

8. 指導観

指導にあたって 研究テーマに向けての取組み

『『たい』があふれる授業をめざして』～心を揺さぶる導入～が本校の研究テーマである。研究テーマを実現するために、「できた、やってみたい」と授業を通して全ての児童が感じられることが必須であると考えられる。そこで、生徒指導提要（令和4年12月）における「自己指導能力」を獲得するための実践上の4つの視点『自己存在感の感受』『共感的な人間関係の育成』『自己決定の場の提供』『安全・安心な風土の醸成』を内在化させた授業を実践する。単元開きでは、児童アンケートから選んだ単元名「ひみつのことばで大へんしん！キララン」を紹介し、自分の好きなものや興味のあるものになりきる学習から始めることを示し、意欲的に活動できるようにする。その後、「跳ぶ」や「回る」等の各種の動き、「速さ」や「高低の差」に変化のある動き、「急変する場面」を入れた動きの学習をそれぞれ2時間ずつで構成し、段階的に取り組んでいく。2時間あるうちの最初の導入では、児童が題材をイメージするために映像等を用い時間を十分に確保する。また、児童アンケートから児童がやりたいものを取り上げ、楽しい雰囲気の中で心と体をほぐしていく。題材においては、秋の校外学習で児童が実際に見た海の生き物や電車、生活科や音楽科で学習した働く車などこれまでの学習の中で触れたことのある題材を取り上げるようにし様々なものになりきりやすく、律動的な活動を好む低学年の児童の特性を生かした学習指導の進め方を工夫していく。単元を通して児童アンケートや体験したことを元に構成することで児童の「やってみたい」を引き出したい。授業ではICTを活用した友達のいいところ見つけやグループ活動を通して、仲間同士で認め合い互いが高めあえるように促したい。

9. 本単元の学習の関連と発展（単元の系統について）



10. 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
① 表現リズム遊びの行い方を 知っている。 ② そのものになりきって全身 で踊ることができる。	① 身近な題材の特徴を捉えた 表現運動の踊り方を選び工 夫している。 ② 友達のよい動きを見つけた り、考えたり工夫したりした ことを友達に伝えている。	① 表現遊びに進んで取り組も うとしている。 ② 場の安全に気を付けてい る。

11. 単元の指導と評価の計画

時	学習内容	主な評価規準	評価方法
			生徒指導の実践上の視点
第1時	オリエンテーション 手遊び・歌遊び、なりきり遊び	【態度】②	観察 安全・安心な風土の醸成
第2時	動物になりきって踊る（1） 跳ぶ、回る、ねじる、はう、素早く走る	【知・技】①	観察、ICT 自己存在感の感受
第3時	動物になりきって踊る（2） 跳ぶ、回る、ねじる、はう、素早く走る	【思・判・表】① 【態度】①	観察、ICT 自己決定の場の提供
第4時	乗り物になりきって踊る（1） 高低の差や速さに変化のある動き	【知・技】① 【態度】②	観察、ICT 共感的な人間関係の育成
第5時	乗り物になりきって踊る（2） 高低の差や速さに変化のある動き	【知・技】② 【態度】①	観察、ICT 共感的な人間関係の育成
第6時	海の生き物になりきって踊る（1） 急変する場面を入れた動き	【思・判・表】②	観察、ICT 自己決定の場の提供
第7時 (本時)	海の生き物になりきって踊る（2） 急変する場面を入れた動き	【知・技】② 【思・判・表】①	観察、ICT 自己決定の場の提供

12. 本時の展開

(1) 本時の目標（第7時）

・海の生き物になり、急変する場面に合わせて踊ることができる。

(2) 本時の評価規準

- ・題材の特徴や様子を捉え、踊ることができる。
- ・題材の特徴を捉えて踊り方を工夫している。

(3) 本時の判断基準

A (十分に満足できる)	B (概ね満足できる)	C (努力を要する児童への支援)
<ul style="list-style-type: none"> 急変する場面で動きを変えて全身を使って踊ることができる。 速さ、向きなどの変化をつけた動きをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 急変する場面で動きを変えて踊ることができる。 場面にあった動きをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達のマネをするように促す。

(4) 本時の展開

流れ	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価 (評価方法)
			生徒指導の実践上の視点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ウォーミングアップ 今日の学習を知る。 本時のめあてを確認する。 	本時のめあてを示す。	
5分	めあて : うみのいきものになっておどろう! キララン!		
展開	<ul style="list-style-type: none"> 海の生き物になって気持ちを表す。 うれしい、かなしい、はずかしい、こわい 急変する場面をいれて踊る。 一人で踊る。 グループで踊る。 	自分で生き物を選ぶことができるための海の生き物ポスターを用意する。 急変する場面が分かるようにBGMを流す。 グループをあらかじめ決めておく。 友達の児童のよい動きを見て参考にするように伝える。 動画を撮ることで自分の動きに気付けるようにする。	自己決定の場の提供 【知・技】題材の特徴や様子を捉え、踊ることができる。(観察・ICT) 【思・判・表】題材の特徴を捉えて踊り方を工夫している。
32分			
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえり めあて つけたい力 全員で水族館の魚になって踊る。 		
8分			

